

患者の有意義な生活と健康を促進できるアイケアの開発に関する研究

看護学科（看護学）

み さわ も え か
三沢 萌伽

●連絡先

TEL：054-202-2636

E-Mail：m.misawa@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

アイケア，集中治療室



集中治療室に入室した患者は、もともと眼疾患がないにも関わらず、眼表面の乾燥や変性、潰瘍形成、感染といった2次的障害を来すことがあります。これらが重症化すると、視力低下だけではなく、睡眠異常、主観的幸福度の低下、抑うつ症状の併発なども招き、病状回復後の生活や健康そのものへの弊害となります。眼表面障害の予防としてアイケア（眼のケア）が必須ですが、エビデンスに基づいたアイケアの確立はされていない現状です。そのため、エビデンスのあるアイケアの確立に向けて日々研究をしています。一日でも早くアイケアの確立および普及をさせて、集中治療を受けた患者が心身ともに健康な姿でその人らしい生活を送ることができるようにしたいです。

アピールポイント

眼球保護ができるツール（險の代替となるもの）を開発したいです。湿潤環境の維持ができ、酸素透過性が高く、緑膿菌などの細菌の侵入を防ぐことができる素材を探しています。ナタデココやハイドロジェルに詳しい方を探しています。

精神疾患をもつ女性への化粧を用いたサポートの研究

看護学科(精神看護学) こんどう みほ
近藤 美保

● 連絡先 TEL : 054-202-2647
E-Mail : kondo@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

精神疾患、統合失調症、化粧



精神疾患を持つ方の生活の質向上につながるよう、その人らしく生きることを支援したいと考えています。私は化粧をもちいて、サポートしたいと考えてこのテーマで研究に取り組んでいます。これまでに、統合失調症で長期入院をしている患者を対象にして、現在化粧をしていない理由について調査しました。化粧を現在していない理由には、統合失調症の症状による影響、制限のある精神科病院への長期的な入院環境などが影響していました。また、病気になったことで自尊心が低下されている方もいました。一方で化粧水や美容クリームといった肌の保護が目的となる基礎化粧品を持ち込みが許可されたことで、病状の回復を実感した方の声がありました。化粧が持つ力、効果は未知の部分がありますが、精神疾患を持つ方のサポートとなるようアプリを用いた支援の開発を進めています。



アピールポイント

化粧支援をもちいて精神疾患を持つ方の支援に携わりたいと考えています。

在宅で定期補充療法を行っている血友病を持つ子どもと、その親に関する研究



看護学科（小児看護学）

やな がわ あきら

梁川 明

● 連絡先

TEL : 054-202-2915

E-Mail : akira-yanagawa@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

小児看護, 血友病, 思春期, 自己注射, 親子, CRC



血友病の患者さんは全国に約7000名おり、20歳までの患者さんでは、約650名が在宅で出血抑制治療を行っている。出血抑制治療として静脈内に凝固因子製剤を投与する定期補充療法が行われてきたが、近年では新たな薬剤であるnon-factor製剤の登場により皮下注射による出血抑制治療も増加してきている。特に乳幼児のような血管が細い場合は、静脈穿刺が容易ではないため、出血抑制治療の約80%を占めるようになった。しかし、6歳以上20歳以下では約70%は静脈内穿刺が必要な定期補充療法を行っており、思春期の患者さん自身が習得するスキルとして未だ重要であると考えます。

思春期やAYA世代において定期補充療法の実施率が落ち込むと言われており、患者家族が抱える思いや取り組みについて知ることから、その実態を明らかにし、思春期の患者さんが抱える課題や、セルフケアを身に付けていくあり方の示唆を得ることで、患者さんの生涯に渡るQOLを良好に保てるような看護支援が出来ることを目指した研究をしています。

また、CRCで培った経験を活かし、看護資格を持つCRCの重要性や教育の必要性についても今後研究していきたいと考えています。

アピールポイント

小児血友病の看護、また、看護師資格を持つCRCとしての経験から協力できることについてご連絡頂けると幸いです。

小児看護師を対象にした看護倫理教育プログラムの開発



看護学科（小児看護学）
看護学研究科（小児看護学）

やま した さなえ
山下 早苗

●連絡先 TEL: 054-202-2916 FAX: 054-202-2916
E-Mail: y-sanae@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

看護研究

看護倫理, 小児看護, 看護教育, 看護実践,



看護倫理は以下の問いに応えるものだと思います。

- ・どこに立って（自分の役割）、その状況をみているか？
- ・誰に対して責任を果たさなければならないか？
- ・責任を果たすためにどの様に行動するか？
- ・どの様な人でありたいか？

看護倫理は看護実践と共にあり、「看護師としての生き方」そのものです。

小児看護において看護師は、目の前にいる子どもの最善の利益を守る責任があります。そのため小児看護実践では、親との価値観の対立、医師との価値観の対立、治療の是非やインフォームド・アセント（コンセン）の是非、子どもの尊厳に関する苦悩など、様々な倫理的問題に遭遇します。

看護師が子どもの advocater として倫理的責任を果たせる様に支援する必要があると考え、「小児看護師を対象にした看護倫理教育プログラムの開発」研究に取り組んでいます。具体的には、看護倫理教育における視聴覚教材の開発、評価尺度の開発、ワークショップの開催を行います。

倫理的能力のある看護師とは

看護倫理学者であるAnn Gallagherは、倫理的能力について5つの構成要素を述べている。

- ①倫理的に【知ること(知識面)】
- ②倫理的に【見ること(知覚面)】
- ③倫理的に【振り返ること(内省面)】
- ④倫理的に【行うこと(行動面)】
- ⑤倫理的に【あること(資質面)】

出典: Anne J. davis, Verena Tschudin Louise de Raevie編集 小西恵美子監訳。
看護倫理を教える・学ぶ 日本看護協会出版会

近代看護の創始者ナイチンゲールの「よい看護師」としてのあり方

「天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、
苦悩する者のために戦う者のことだ」

出典: Florence Nightingale: 湯積 ます 翻訳, 澤井担子翻訳。
看護覚え書 現代社



Florence Nightingale
(1820~1910年)

アピール ポイント

看護倫理教育を行う上で、視聴覚教材の開発やワークショップ開催にご協力くださる企業を探しています。

手術を受ける乳がん女性への看護に関する研究



看護学科（成人看護学）
看護学研究科（成人看護学）

やま だ あや こ
山田 紋子

● 連絡先 E-Mail : yamadaa@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

看護, 乳がん, 意思決定, 手術



乳がんは、女性のがんの中で年齢調整罹患率 第1位を占め、女性にとって罹患しやすいがんの1つだといえる。その治療は複数の方法を組み合わせるが行うが、多くの場合、手術療法は必須となる。乳がん手術を受ける女性は、がん罹患した衝撃を受けながら、手術の術式を自ら意思決定し、乳房の変形あるいは喪失を受け入れていかなければならない。その中にはボディイメージや自己像の否定的変化、落ち込みやうつを感じる女性もいる。

私は看護師として、このようなさまざまな想いを抱く多くの女性に出会い、自身も悩みながら関わってきた。こうした経験に基づき、手術を受ける乳がん女性へのサポートについて探究している。現在は、近年、乳房喪失への対応の1つとして注目されている乳房再建術に焦点をあて、再建術を受けるか否かの意思決定や手術に伴う体験をテーマとし、看護師の役割について検討している。

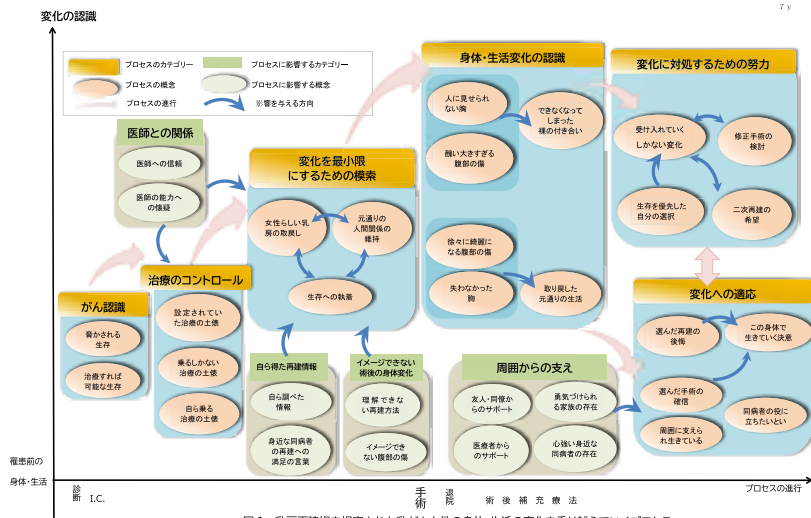


図1 乳房再建術を提案された乳がん女性の身体・生活の変化を乗り越えていくプロセス

アピールポイント

昨今、がんを抱えながら働く女性は大勢いらっしゃいます。微力ですが、少しでもそうした皆様のお役に立てたらと考えております。

男性作家による女性の筆名使用事例の研究

ありもと し ほ
一般教育等 **有元 志保**

● 連絡先 TEL : 054-202-2643

キーワード ウィリアム・シャープ／フィオナ・マクラウド、
筆名、ジェンダー、ケルト、イギリス文学、
スコットランド文学



作家が異性の筆名を使用する意図を探ることは、作家個人のジェンダー意識を解明する手がかりとなるだけでなく、その行為を歴史的、社会的文脈に置くことによって、作品解釈の深化をもたらす可能性もっています。ウィリアム・シャープ(1855-1905)は、本名に加えて多数の異名の下に執筆を行ったスコットランド出身の作家、批評家であり、特にフィオナ・マクラウドの名における、ケルト文芸復興との関わりによって知られています。10年以上にわたりマクラウドを名乗って文筆活動を継続しただけでなく、実生活でマクラウドのペルソナを構築して人々と交流したシャープは、異性を装った男性作家の代表的存在といえます。シャープをはじめとして、イギリスやアメリカで男性作家たちが女性名を用いた事例に着目し、その経緯や背景を辿るとともに、女性名で発表された作品や、それらに対する批評を分析して、異性名使用の効果について考察しています。近年は、明治から昭和期にかけての日本でのシャープ／マクラウド受容にも関心もっています。



オンラインゲームを利用した社会的スキル向上およびコミュニティ創出



一般教育等

たか だ けい すけ

高田 佳輔

● 連絡先

E-Mail: k-takada@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード オンラインゲーム, MMORPG, ソーシャルスキル, コミュニティ, サードプレイス, 協調, コミュニケーション, ゲーム, 集団問題解決能力

数値（量的）データ、および、インタビュー等の（質的）データを用いた様々な分析を行っています。

① オンラインゲームのプレイングが利用者に及ぼす影響（良い側面・悪い側面）

一般に発売されているオンラインゲームを対象に、プレイヤーの集団問題解決能力の測定を5年以上継続して行っています。これまでに、特定ジャンルのオンラインゲームをプレイすることで、現実世界における集団問題解決能力が向上することがデータで示されました。他方で、オンラインゲームをプレイする動機と依存との関係性についても同様の年数検討を行っており、ゲームに依存しやすい・依存しにくいプレイスタイルについてもデータを用いて明らかにしています。

② オンラインゲームのコミュニティスペースとしての利用可能性

近年、現代人の日常生活での多忙さや、距離的制約により友人と交流が難しいなどの影響でコミュニティが維持できないという問題があります。しかしながら、オンラインゲームプレイヤーたちは、このような状況下でもコミュニケーションを十分にとり、コミュニティを拡大し続けています。さらに、プレイヤーはオンライン上で現実世界では出会うことが難しかったであろう多様な人々との交流を行っています。このようなコミュニティスペース（サードプレイス）としてのオンラインゲームの利用可能性について検討を行っています。

アピールポイント

遊びながらスキルの向上やコミュニティへの参加を可能とするオンラインゲームについて、良し・悪しの両側面からデータを用いながら情報提供ができます。

腸オルガノイドを用いた栄養素吸収の研究



一般教育等

・連絡先

たけした いしづか のり こ
竹下(石塚) 典子

TEL : 054-202-2631

E-Mail : n-ishizuka@u-shizuoka-ken.ac.jp

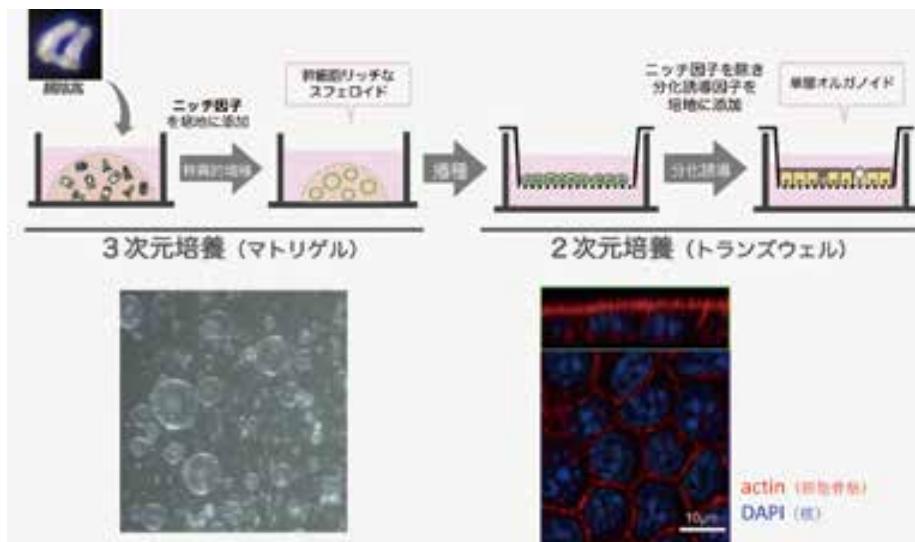
キーワード

小腸, 栄養素吸収, オルガノイド, 経上皮輸送



短期大学部

小腸の吸収・分泌機能をin vitro（生体外）で評価するために、これまでは小腸のモデル細胞株であるCaco-2細胞の単層培養系や動物個体から摘出した標本が使われてきました。しかし、Caco-2は大腸由来で生体の小腸とは生理学的に異なる点が多いこと、摘出小腸では絨毛の立体的な構造のため、吸収機能のみの定量的な測定などは困難であることなど、それぞれ問題がありました。近年、単離培養した腸幹細胞を用い、生体内の腸組織に似た「腸オルガノイド」の培養技術が開発され、動物実験やこれまでの培養細胞の欠点を克服した新たなツールとして期待されています。腸オルガノイドの単層培養法を確立し、オルガノイドを用いた栄養素吸収機能の評価に取り組んでいます。



アピールポイント

オルガノイドは、動物の福祉の観点から、実験動物の使用数を減らす実験方法としても注目されています。

暑熱下運動時のパフォーマンス向上と熱中症予防



一般教育等

はやし けい じ

林 恵嗣

● 連絡先

TEL : 054-202-2639 FAX : 054-202-2639

E-Mail : khayashi@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード 運動、体温、呼吸、循環、身体冷却、炭酸泉、熱中症、過呼吸、スポーツ



【体温上昇による換気亢進】

体温が上昇すると、呼吸が激しくなります。この激しい呼吸によって体内の二酸化炭素が過剰に排出されてしまい、末梢血管が収縮してしまいます（二酸化炭素には血管拡張作用があります）。特に、脳血管でこの影響は大きく、これが運動パフォーマンスの低下や熱中症にも関わっているのではないかと考えられています。この換気反応のメカニズムや防止方法に関する研究を進めています。

【炭酸泉を用いた効果的な身体冷却方法】

体温の過度な上昇は運動パフォーマンスの低下や熱中症の原因となります。このような過度な体温上昇を抑制する手段の一つとして身体冷却がありますが、身体冷却は「寒い・冷たい」といった不快感を伴うこともあります。このような課題を解消しながら、より快適で効果的な身体冷却方法として炭酸泉を用いた冷却があります。炭酸泉は通常の水と比べると暖かく感じるという特性があるため、不快感が軽減されます。さらに、炭酸泉に浸かると、皮膚血管の拡張が起こることで、熱移動が促進され、急激な血圧上昇も抑えられます。このような炭酸泉による冷却効果について検討しています。



アピール ポイント

熱中症予防に関する情報提供や、運動中の生理的データ測定等について協力できます。

シフトワーカーの健康維持

かな やま けい いち
歯科衛生学科 **金山 圭一**

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。)
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

シフトワーク, 交替勤務, 口腔保健,
社会的時差ぼけ, 労働衛生



概日リズムを乱す生活習慣の変化は、慢性的なストレスの原因になります。就労時間の形態、中でも継続的な交替勤務（シフトワーク）は、慢性的な時差ぼけ状態を引き起こします。

私の研究では、マウスモデルを用いたコホート研究によって、概日リズムの乱れと歯周病進行の因果性について検証しています。

研究の成果により、概日リズムの乱れが歯周組織・口腔の健康に及ぼす影響を明確にしたいと考えています。具体的には「このシフト勤務なら口腔の健康に対し許容できる」という体への負担が少ない勤務条件の提示など、交替勤務者の健康維持のための知見を提供できます。

アピール ポイント

職域・地域の方々の健康のために、基礎研究から得られた知見をお伝えできます。

新規の骨形成タンパクを用いた歯周組織再生療法確立に向けての研究

こばやし ゆかり

歯科衛生学科

小林 由佳梨

● 連絡先

TEL : 054-202-2654

キーワード

歯周病、組織再生、BMP-9、炎症



歯周病は、歯周病原性細菌の感染によって、歯を支えている骨やその周りの組織が破壊される慢性的な炎症性疾患です。近年、その失われた歯周組織の再生を目的として、様々な成長因子の応用が検討されています。そのなかでも BMP-9 というタンパクは、高い骨形成能を有し、歯周組織の再生を考えるうえで有用な成長因子となりうることで注目されています。一方で、歯周組織局所の炎症環境は歯周組織再生過程における様々な細胞現象に対して影響を与えることが考えられます。そこで、炎症環境下における BMP-9 の骨形成能に対する影響を、細胞を用いて検討しました。本研究の結果、炎症環境下では BMP-9 の骨形成促進作用が抑制されることが明らかとなり、BMP-9 を用いた歯周組織再生療法には、歯周病原細菌によって生じる炎症性因子を適切にコントロールすることが重要であることが示唆されました。歯科保健指導を通じた炎症のコントロールは、歯科衛生士の重要な役割であることから、この結果をもとに、歯周病の新規治療法だけでなく、より効果的な歯科保健指導の在り方を検討していきたいと考えています。

アピールポイント

細胞培養や遺伝子解析の手法を利用したアプローチが可能です。
今後は臨床経験で培った知識と技術も活かして、口腔と全身の健康の支援に向けた研究を行ってまいります。

子どもの口腔健康に関するスペシャリスト —疫学から無作為化比較研究まで—



歯科衛生学科

なか い ゆき え
仲井 雪絵

● 連絡先

TEL : 054-202-2686 FAX : 054-202-2686

キーワード 妊娠期からの口腔保健, マイナス1歳から始めるむし歯予防, 乳幼児歯科保健, 糖アルコールを応用した齲蝕制御, 食基盤型予防戦略, 歯科恐怖, Food Frequency Questionnaire, ペインコントロール, 行動科学



短期大学部

研究の進展とともに病因は解明され予防法が開発されているのに、むし歯はなぜ撲滅できないのか？おそらく「理論が正しくても、行動変容を伴わなければ、成果に結びつかない」からです。そこで、行動科学的視点を忘れずに「むし歯予防」の研究に従事してきました。日本人小児のむし歯を世界一少なくするためには、その「感染症」的側面に介入する必要があると考え、妊婦に対しキシリトールを用いてむし歯菌の母子伝播予防効果を検証するための無作為化比較研究を5年間実施し、その成果を歯科で権威ある国際雑誌に掲載しました。最近のSystematic review 論文においてサーチされた1078本の関連論文の中で、ファイナリスト2本の中に自分の論文が選ばれていました。科学的根拠として高い評価を得たことを励みにして、現在は、齲蝕誘発性の観点で食事因子（ショ糖摂取）を分析しています。



【歯科医療者向け書籍】

仲井 雪絵 著

「マイナス1歳からはじめるむし歯予防」
(株)オーラルケア 発行



【一般の方向け書籍】

仲井 雪絵 著

「マイナス1歳からはじめるむし歯予防
～ママになる前からできること～」
(株)オーラルケア 発行

**アピール
ポイント**

「マイナス1歳からはじめるむし歯予防」と題した最先端の齲蝕予防に関する講演を、国内外で125回以上開催しています。

歯科衛生士のプロフェッショナリズムアイデンティティに関する研究

なが たに ゆ き こ
歯科衛生学科 **長谷 由紀子**

(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。)
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード プロフェッショナリズム, 専門職アイデンティティ, 医療人教育, 医療コミュニケーション, 多職種連携医療教育, 歯科衛生士の専門性



医療者へのニーズが多様化している現代社会からは、歯科衛生士に求められるものも複雑化・多様化しています。そのようなニーズに対応するため、歯科衛生士教育はエキスパート（職人）教育からグローバルな医療人としての医学教育へと転換するべき時にきています。歯科衛生士教育の確立のためには、まず歯科衛生士のプロフェッショナルリズムアイデンティティを解明し、歯科衛生士の専門性を確立していかなければなりません。

本研究では歯科衛生士のプロフェッショナリズムに関する意識や態度、それに関わる因子の解明を進めています。プロフェッショナリズムは様々な社会文化的背景に影響を受けて形成、涵養されています。そのため、歯科衛生士の臨床現場や教育現場における患者とのコミュニケーションや多職種連携などの行動科学に関わる認識をナラティブな視点で捉えた質的研究を行っています。



アピール ポイント

医療人のプロフェッショナリズム、医療コミュニケーション教育に関する教育研究を行なっています。
卒前教育だけでなく、卒後研修としてのコミュニケーション教育プログラムの提供も可能です。

歯・口の健康とヘルスリテラシーとの関連

の ぐ ち ゆ き
歯科衛生学科 野口 有紀

●連絡先 TEL : 054-202-2648

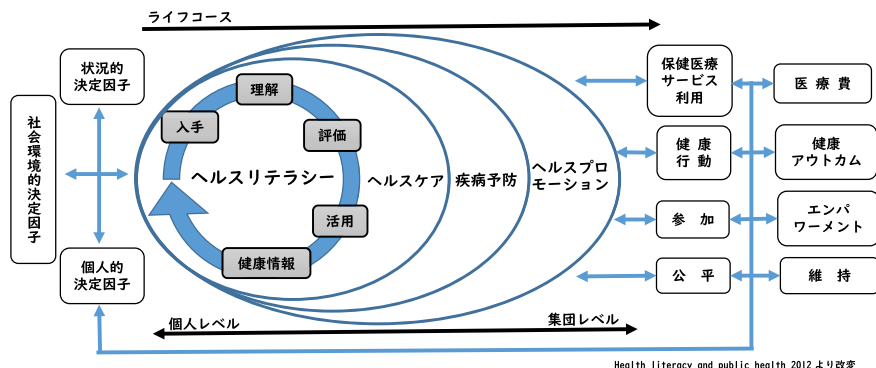
キーワード

歯・口の健康, 健康寿命, 健康格差,
オーラルヘルスリテラシー, eヘルスリテラシー



健康増進を図るうえで、ヘルスリテラシーという概念が注目を浴びています。ヘルスリテラシーとは、多くの健康や医療に係る情報の中から、正しい情報を選択し、その情報をよく理解し使いこなしていく能力のことです。ヘルスリテラシーが高いほど、健康的な行動習慣が身に付いていたり、保健医療サービスを利用する機会が多いなど、健康を維持し病気を悪化させていないことが報告されています。米国では健康格差が改善しない理由のひとつとして、健康情報が伝わっていない、または伝わりにくい人がいることが指摘されています。日本のヘルスリテラシーは海外の国と比較して、低いという調査報告があります。わが国において、オーラル（歯・口）ヘルスリテラシーやe（インターネットなど）ヘルスリテラシーが、健康に影響を及ぼしているかどうかについて研究をしています。

ヘルスリテラシーが健康に及ぼす影響イメージ



アピールポイント

歯・口の健康を通じて、健康寿命や健康格差に係る健康支援を行っています。学術的に裏付けのあるむし歯や歯周病予防に関する令和における最新の情報が提供できます。

各ライフステージの特徴的な生活習慣と口腔の健康の関連について

歯科衛生学科

ふじ た み え こ
藤田 美枝子

●連絡先

TEL：054-202-2635

キーワード

歯周疾患予防，う蝕予防，ライフステージ，生活習慣



高齢になっても自分の歯を保つことは、口腔機能のみならず、全身の健康にとっても良いことが分かってきました。歯を失う原因の多くは、う蝕と歯周病です。歯の喪失を予防するためには、生涯を通じ、ライフステージの特徴に合わせた対策を行うことが重要です。特に、中学生は歯肉炎が急増する時期であり、歯周疾患予防にとって重要な時期と言えます。

これまで、中学生を対象に、日常の歯磨き、歯科受診行動等の歯科保健行動だけでなく、インターネット利用や習慣的摂取飲料と口腔健康状態の関連について調査、研究をしてきました。近年、インターネットが若年層にも急速に普及し、インターネット利用時間が長くなる傾向にあります。こういった環境が、夜更かしや夜食の摂取等、中学生の生活習慣に影響を与えている可能性があります。データを分析したところ、インターネット利用時間が長い群の方が、口腔健康状態が良くないことが示唆されました。

今後も、ライフステージの特徴に応じた歯科疾患の予防に関する研究を進めていきたいと考えています。

歯周病の病因と予防の研究 {マトリックス・メタロプロテアーゼ (MMP) を中心に}

よしだ なおき
歯科衛生学科 吉田 直樹

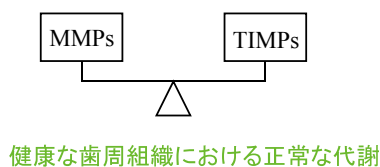
(本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。)
TEL : 054-264-5124 E-Mail : renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

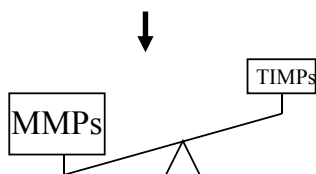
歯周病, マトリックス・メタロプロテアーゼ (MMP), TIMP, コラーゲン



マトリックス・メタロプロテアーゼ(MMP)は、生体において、コラーゲンをはじめとする細胞外マトリックス(結合組織)の成分を分解することができる、タンパク質分解酵素です。MMPは、生理的な、発生、成長における組織の再構築において重要な役割を演じています。一方で、MMPは様々な疾患の進展に関与しています。ティッシュ・インヒター・オブ・メタロプロテアーゼ(TIMP)は、MMPの活性を阻害し、活性を精密に制御できる、生体由来のタンパク質です。歯周病、リウマチ性関節炎、悪性腫瘍の転移などにおいては、MMPとTIMPのバランスが崩れていることが明らかにされています。このメカニズムの詳細な研究とそれに基づいた疾患の予防や治療をめざした研究を行っています。



健康な歯周組織



歯周炎



歯根膜の破壊
歯槽骨の吸収



アピールポイント

近年、歯周病は全身にも影響を及ぼすことが明らかにされてきました。歯周病の病因、予防、治療の研究はますます重要視されてきています。

高齢者の地域居住を支える介護従事者の技術教育プログラムの開発

社会福祉学科
(介護福祉専攻)

アン キョン イ
安 瓊 伊
(AHN Kyung-ye)

●連絡先 TEL : 054-202-2638
E-Mail : ahn@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

地域居住高齢者支援, 介護従事者,
介護福祉士養成校学生, 求められる技術, 学習プログラム

介護従事者や介護福祉士養成課程の学生の介護技術に関する学習内容は、未だに身体介助に関する技術が主であります。これまで行ってきた研究で介護福祉士の実態から明らかにした「技術」は、地域資源の発見と活用、専門職や住民など多様な人々との連携、高齢者の自己決定に基づく個別性の高い文化・社会的生活の支援など多様でした。現在これらの技術習得は、介護従事者ら個人の経験や学習に依存し、感染症などにより実習経験の乏しい学生は学ぶ機会を得ることすら困難でした。そのため、高齢者の地域居住実現のために介護従事者に求められる技術を教育・学習する方法の検討が求められます。

本研究では、介護福祉士養成校の教員や福祉施設・事業所の人材育成担当者が「介護従事者に求められる技術」の獲得を促す教育的取り組みの実態を量的・質的に把握し、高齢者の希望する生活を実現する能力を高めるため、どのような状況下でも活用可能な講義・演習の企画書や教材を含む教育プログラムの開発を目指します。はじめに介護福祉士養成校学生や介護従事者に対する身体介助以外の技術に関する教育内容や方法に関する文献レビューに取り組んでいます。



高齢者の地域居住を支える介護従事者の技術教育プログラムの開発

地域支え合い災害時要援護者支援モデルの構築



え ば ら かつ ゆ き
社会福祉学科 江原 勝幸
(社会福祉専攻)

● 連絡先 TEL : 054-202-2685 FAX : 054-202-2685

キーワード

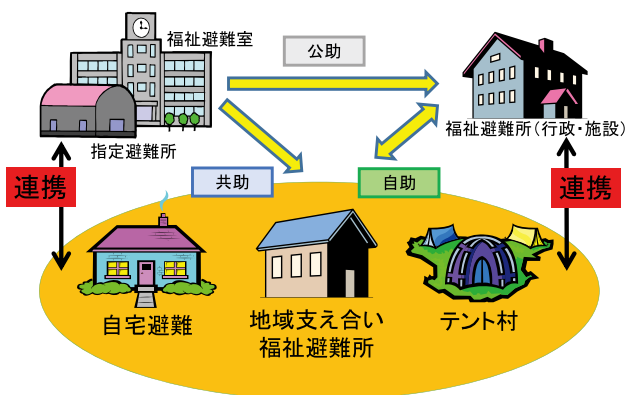
災害時要援護者, 福祉避難所, 地域福祉力,
多層的ネットワーク支援, 地域づくり



避難行動や避難生活において、高齢者、障害者、子どもなどの要援護者支援は地域の喫緊な課題であるが、具体的な支援策に結びついていない。「自助」には限界があり、「共助」の関係性が弱まり、「公助」も一向に進まない中、要援護者が大規模災害時に取り残されることをまた繰り返すことになりかねない。本研究は、地域住民主体で支え合う福祉避難所の設置及び運営を考察し、多層的なネットワーク支援による要援護者支援体制を構築するものである。普段からの関係性を活かした共助が要援護者の命を救い、生活を支えることを中心に、地域での自助・共助・公助が機能する支援モデルを考察・検証する。平常時から顔の見える関係や地域の福祉力が災害時に力を発揮する地域支え合い支援は、より豊かで安心できる地域づくりに貢献することが期待できる。

短期大学部

要援護者の地域支え合い支援モデル



アピールポイント

具体的な地域での要援護者支援の体制づくりを目指します。
普段の住民同士の関係強化や地域福祉力の向上が期待できます。

1. 地域で活躍する介護福祉士の役割の明確化と能力開発

2. 福祉・介護の人材育成における家政学の役割と課題

社会福祉学科
(介護福祉専攻) **奥田 都子**

● 連絡先 TEL: 054-202-2689 FAX: 054-202-2689
E-Mail: okuda@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード 地域福祉における介護福祉士の役割、介護福祉人材育成、生活支援の家政学、介護離職を防ぐ生活経営支援



直近の研究テーマは、地域における介護福祉士の役割の明確化です。

要介護者への直接的支援だけでなく、地域共生社会の実現に向けて地域の相談支援や地域課題解決への参画、住民の相互支援の調整などの役割を担う介護福祉士の活動に注目します。介護福祉士会、社会福祉協議会、事業所へのヒアリングや地域福祉実践場面で活躍する介護福祉士へのインタビューを通して、地域福祉実践に従事する介護福祉士の所在と職務・活動内容を把握するとともに、期待される役割、必要な能力開発に向けての示唆を得たいと考えています。

また、継続的な研究テーマとして、福祉・介護の人材育成に必要な教育・研修について、家政学・生活科学の視点から研究に取り組んできました。家政学各領域（生活経営・衣・食・住）の研究者による共同研究に基づき、福祉・介護を学ぶ大学・専門学校の学生に向けたテキストを 2003 年から継続的に刊行しており、学生の生活自立と専門職としての生活支援に有用な知識・技術の修得に向けて、内容を見直しながら版を重ねています。



**アピール
ポイント**

2024年9月に『生活支援の基礎を学ぶ—介護・福祉・看護実践のための家政学—』を上梓しました。

災害時要配慮者を対象とした福祉支援活動と研修・教材開発

社会福祉学科
(介護福祉専攻) **鈴木 俊文**

●連絡先 TEL: 054-202-2681
E-Mail: tsuzuki@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード

災害時要配慮者, 災害時の福祉・介護,
福祉・介護施設, 防災研修, 災害派遣福祉チーム, DWAT



災害発生時に一般避難所等において災害時要配慮者（高齢者、障がい者、子ども等）を対象に、災害関連死等の2次被害防止を目的に支援を行う「災害派遣福祉チーム（以下、DWAT（Disaster Welfare Assistance Team）登録員）」の養成、活動に有用な教材開発に取り組んでいます。

福祉・介護の対象となる要配慮者における災害対応は、発災時に生じる避難行動や生命維持レベルの「緊急対応」ととどまらず、災害関連死等二次被害を防止するために、被災生活を長期的な視野で健康管理するための「合併症予防の対応」や、被災生活で「制限された環境下でのケア」など、災害過程に応じた設備、しくみ、マンパワーが欠かせません。近年、震災等に加え豪雨による局所的な被害が年々増加し、災害対応は緊急時ではなく、平時からの活動が極めて重要になっています。

本研究では、これまでに自然災害で被災した一般避難所や高齢者・障害者等福祉現場の災害対応を集積し、福祉・介護施設の災害対応や避難所におけるDWATの活動など、災害時要配慮者支援の目的に応じた研修プログラム、教材開発に取り組んでいます。



アピールポイント

被災事例を基に災害対応の実際と必要な支援等を疑似的に体験しながら考える演習中心型の研修づくりに取り組んでいます。福祉・介護専門職や事業所のニーズ、目的に応じて、研修プログラム作成や研修提供を行います。

介護福祉士実習指導者講習会における教授及び評価方法に関する研究

社会福祉学科
(介護福祉専攻) **高木 剛** たかぎ つよし

●連絡先 TEL：054-202-2676 FAX：054-202-2676

キーワード

介護福祉士実習指導者講習会, 教授方法, 修了評価, 実習指導者, 学修意欲・姿勢, 学修効果



短期大学部

2007年12月の社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正に伴い、社会福祉施設等（ただし、「実習施設・事業等Ⅱ」に限る）の実習指導者の要件として、介護福祉士実習指導者講習会（以下、講習会）の受講が義務づけられた。講習会は、介護福祉士の職能団体であるN会をはじめ、学校法人や株式会社などが実施している。

近年、受講者の低年齢化とともに学修意欲・姿勢などに疑問を感じさせるケースが目立ってきている。消極的な受講動機、課題の未提出、講義中の居眠りなどである。このような現状を踏まえ、筆者は学修効果を高められるような教授方法や修了評価の在り方等について探究している。なお、筆者が2018年12月から2019年6月に、N会の47支部に対して講習会における「修了評価」の実施状況を調査したところ、実施していたのはわずか1支部であった（表1）。

海外に目を向けてみると、ドイツの実習指導者養成では修了評価が義務づけられている。各州によって若干異なるが、多くの場合、筆記試験（専門研究）、口述試験、実技試験といった形式で行われる。例えば、ハンブルク州では修了評価として筆記試験（専門研究）、実技試験、口述試験が課せられ、筆記試験（専門研究）では職業教育に係るテーマを個々の受講者が設定し、授業計画の立案、実施、評価などについてレポートにまとめる。また、実技試験では、試験官の立ち合いのもと、受講者が指導案にもとづき訓練生に介護実践について指導する（試験時間：30分間）。さらに口述試験では、個々の受講者の筆記試験（専門研究）について、試験官と討論する（試験時間：15分間）。なお、各試験の評価割合は、筆記試験（30%）、実技試験（30%）、口述試験（40%）である。いずれの試験も、「区分1」100～92ポイント（非常に優れている）から「区分6」20～0ポイント（不十分）のいずれかで評価され、「区分4」66～50ポイント（十分）に満たない場合は再試験となる。

本研究では、このようなドイツの取り組みも参考にしたい。

表1. N会47支部における講習会の修了評価の有無

支部	ホームページ等の有無	修了評価の有無	支部	ホームページ等の有無	修了評価の有無
A	有	無	Z	有	不明
B	有	無	aa	有	無
C	無	不明	bb	有	無
D	有	無	cc	有	無
E	有	不明	dd	有	無
F	有	無	ee	有	無
G	有	無	ff	有	無
H	有	無	gg	有	無
I	有	不明	hh	有	無
J	有	無	ii	有	無
K	有	無	jj	有	無
L	有	無	kk	有	無
M	有	無	ll	有	無
O	有	無	mm	有	無
P	有	無	nn	有	無
Q	有	無	oo	有	無
R	有	無	pp	無	不明
S	有	無	qq	有	無
T	有	無	rr	有	無
U	有	無	ss	有	無
V	有	無	tt	有	不明
W	有	無	uu	有	無
X	有	無	vv	有	有
Y	有	無	計	有 (45支部)	有 (1支部)

(注)修了評価「有」の判断は、講習会の開催要項等にその旨が記載されていることを条件とした。

アピールポイント

介護福祉士実習指導者講習会の講師のほか、受講者の学修効果を高める教授・評価方法に関する研究（共同研究）などには、積極的に協力します。